

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム 新得ふれあい館		
所在地	新得町西3条南6丁目1-3		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携がとれている。 ・利用者のジム通い。 ・地域との交流を持つ。(夏祭りへの参加)
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174700781&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年10月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街に位置した当事業所は、平成14年開設当初からの管理者が、職員と共に質の高いケアサービスの提供に向けて取り組んでいる。利用者一人ひとりの有する力を見極め、保健センターのジムでの機能訓練を送迎したり、利用者が自由に散歩できる方策を検討するなど、本人や家族と相談を重ねながら暮らし方や習慣、希望を重視した個別支援を展開している。地域行事や会館清掃に積極的に参加し、町内と良好な関係を築いている。夏祭りでは一方的に行事を楽しむだけでなく、利用者とともに輪投げゲームを主催して地域住民にも楽しんでもらうなど交流を深めている。かかりつけ医をはじめ、馴染みの美容院や店、友人関係など利用者の地域での社会生活が継続できるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指し取り組んでいる。	法人理念に加えて事業所独自の理念を職員と共に作成し、互いを思いやり、社会とのつながりを大切にするケアサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	若草町内会に入会し、町内会行事等に参加し交流を図っている。	町内会に加入し、花見や夏祭りなどの行事に積極的に参加している。利用者とともに手づくりの輪投げゲームを出し物にして祭りを盛り上げたり、会館清掃を手伝う等、地域の一員として貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要請を受けて、見学や研修を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、活動報告と現状についての相談等を行い意見交換している。	2ヶ月ごとに開催する運営推進会議では、運営状況や利用者の様子、評価結果等を報告し意見交換している。また、避難訓練への参加や日常的な協力のあり方等を検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し、運営上の疑問には積極的に相談しケアの向上に努めている。	疑問があれば、地域包括支援センター職員や介護保険課担当者に積極的に相談し助言を得ている。また、市町村から新規利用者の紹介を受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束防止委員会を設置し、全職員のアンケート調査を実施し、社内研修で意見交換を行っている。	全ての職員に社内研修の受講を促し、身体拘束をしないケアの周知徹底を図っている。利用者への何気ないケアが行動抑制につながらないように日ごろから注意し、日中施錠することのない玄関を利用者は自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止委員会を設置し、全職員のアンケート調査を実施し、社内研修で意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部講師による社内研修を行っている。今後必要に応じ対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者さん及び家族さんに関覧して頂き、契約時には説明し質問をおききし契約をおこなっている。解約時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。意見頂いた場合はスタッフ会議のときに話し合い運営に反映させる。	内、外部の苦情相談窓口を明示するとともに、家族来訪時に要望を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者や家族から出された要望は職員間で共有し、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により、会議で提案され反映されている。	毎月全員参加の会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、行事外出先の提案を取り入れるなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている。又、職員の評価を行い、実績・勤務状況により反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施。全員が研修を受ける機会を確保している。外部研修にも参加し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくりとケアの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学をして頂く他、面談を行い入居前の不安解消と信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんに対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望に対しても出来る限り応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族さんの生活歴、主治医、関係機関からの情報をアセスメントし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、出来る事ややりたいことに参加出来る様話し合い実現している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	思ったときに電話が出来る。毎月写真付きのおたよりで現状報告を行い、絆を大切にしている。家族さんには訪問をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流がしやすい様、電話が出来たり面会時間に制限も設けていない。近所であれば会いに行くための支援を出来る限り行っている。	利用者のほとんどが馴染みの理美容院に通っているほか、以前からの友人と電話したり昼食を共にする機会を設け、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶飲みで、利用者同士が毎日顔を合わせる機会がある。気の合う人同士で会話を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後家族さんとお会いしても、気軽にお話し出来る関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望・意向を見極める様努めている。困難な方は働きかけている。	日ごろから利用者の意思を尊重し、思いや希望を汲み取りながら、家族とともにその人らしい暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具、食器類を利用して頂き、出来る限り生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子はケース記録に残し、スタッフ全員情報の共有を密にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族さんの意見を聞き、また日々の様子を見ている中で現状に即した介護計画を作成している。	毎月の会議やケアカンファレンスで全職員、看護師が意見を出し合い、本人、家族の要望を反映した介護計画を作成している。状況に変化が生じた場合は、現状に見合った介護計画となるよう、その都度変更や修正を加えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフが共有し、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族さん、ご本人の要望に応じ柔軟に対応する様心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保健センターに設置されている「リフレッシュルーム」を活用し、体力維持は勿論、外部の人との交流をし気分転換している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院で、顔なじみの先生なので安心して受診されている。	本人、家族が馴染みの病院に継続して受診しており、町外への通院は家族の協力を得ているが、町内の受診には職員が同行し、かかりつけ医との連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師がいることで、気軽に相談が出来る。的確なアドバイスをもらう事が出来、入居者さんの安心へつながっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、受け入れ態勢を整え早期退院出来る様取り組んでいる。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族さんと話し合いお互いの方針を共有出来る様努めている。	重度化した場合の対応について、利用者の状況に応じて医師を含めて家族と相談している。法人として、重度化した場合の対応指針を文書で作成し、順次家族に説明を行い同意を得ているところである。	できるだけ早く、全ての家族に重度化した場合の対応指針を説明する機会を設け、同意を得ることが期待される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、及び事故発生時の応急手当等の対応については、消防署の研修を受けている。今後も継続していきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施。夜間対応についてもはじめている。	定期的に避難訓練を行っている。前回は町内会役員等地域住民とともに夜間を想定した避難訓練を実施しているが、利用者は全員参加には至らなかった。	避難訓練は可能な限り利用者の全員参加が望まれる。また、地域連携のあり方では、一時避難場所として地域の会館と相互協力体制を築くことなども期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を損ねるような言葉遣いは十分に気をつけている。	利用者一人ひとりに応じた接遇に努め、誇りを損ねることがないように言動に配慮している。個人情報の使用に係る同意書を家族と取り交わし、法人の保護方針に沿って個人情報を適切に取り扱っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の能力に応じ、選択出来る様働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり寝ていたいときは寝られるように、お風呂が好きな方には出来る限り利用出来るように対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	思い思いの美容室やお店に行って頂ける様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には声をかけ、準備や片付けをして頂いている。誕生日には本人の好きな物を食べに出かけたりする。	日・月曜日は利用者の好みを献立に反映し、食材の買い出しと一緒に出かけている。それ以外の日も届けられる食材を基に利用者好みの献立を工夫し、利用者の能力に応じて一緒に調理や後片づけをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎食チェックし摂れているか確認している。食事だけでは十分な栄養が摂れないかたには、相談の上、おやつ等の間食で対応。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアが出来る方、出来ない方を把握し必要なケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせた下着を使用して頂いている。状態に合わせて、トイレ誘導をおこなっている。	時間誘導や一部介助、見守りなど利用者の状態に応じてトイレでの排泄を支援している。失敗への不安でパッド使用を希望する場合は、本人の思いを大事にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ジムを利用して無理の無い運動、散歩をすすめている。様々なおかずを提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日等は決めず、声かけでおすすめしている。入浴希望があれば対応している。	週1～3回を目途に利用者の希望に応じて入浴を支援している。毎日の入浴や同性介助、時間等の希望にも柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重し、その人なりの休息をとって頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルに綴じいつでも確認が出来るようになってきている。内服については確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力にあった役割分担をしている。ジム通いをしたり、花壇の手入れ収穫を楽しんで頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	住んでいた地域にドライブしたり、買い物やジムにも出かけている。季節ごとに花見や行事を行っている。	散歩や買い物、理美容室や保健福祉センターのジムなど、利用者の希望に沿って外出できるよう支援している。季節毎の行事では、利用者に縁のある土地に出かけ、誕生日には本人の希望に応じて外食に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんとも相談し、希望に添って対応している。お金での不安を感じさせないように、スタッフ間で話し合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望には即対応している。こちらから働きかけることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備は一般家庭とかわらないもので、どなたも利用出来るものと考えている。毎月手作りカレンダーを作成し、季節感を感じて頂けるよう工夫している。	居間や食堂の大きな窓からは山が一望でき、季節の変化を日々味わうことができる。家庭的な居間でテレビを見たり、自宅から摘んできた花を生けたりしながら、利用者が落ち着いて過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に、和室やポーチがあり1人になる事も出来れば、気の合う方と過ごす事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたなじみの家具等を持ち込み、今迄の生活と変化がないよう配慮している。	居室には本人が使い慣れた筆筒や生活用品、仏壇などを持ち込み、居心地よい空間となるよう配置している。居室ごとにトイレと洗面所を設置し、気兼ねなくトイレを使用できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は見通しの良いつくりになっている。居室前に名前や写真を掲示し安心感を持って頂いている。		